

Kビジョン放送番組審議会（2020年3月17日）

放送番組審議会（第22期第2回会合）では、『タウンニュース～イルミネーション生放送』、特別番組『「ものづくりのまち」を生んだ男～久原房之助（くはらふさのすけ）の夢』を合評しました。

<合評番組>

■タウンニュース～イルミネーション生放送（17分）

2019年12月23日(月) 放送

下松市のJR岩徳線・周防花岡駅からイルミネーション点灯式の模様を生放送。駅前の樹木などに、地元自治会やJRなどの協力を得ながら、Kビジョンがイルミネーションを設置。点灯の瞬間や、地元住民の駅に対する愛着の深さを伝えました。2019年入社の神原杏奈、佐々木美帆両リポーターが現地からリポートしました。

■「ものづくりのまち」を生んだ男～久原房之助の夢～（15分）

2020年1月1日(水)～5日(日)放送

日立グループの創業者として知られる実業家・久原房之助は「下松工業都市宣言」を掲げ、下松市を一大工業都市にしようと尽力。また、現在の下松工業高校を創設し、いまでも多くの若者がものづくりの技術を学んでいます。2人の工業高校出身者の姿やものづくりの姿勢から追いかけて、久原房之助が描いた“夢の先”を探りました。

<合評内容>

■タウンニュース

- ・周防花岡駅の地図が出ていると、下松市以外の視聴者にもわかりやすく伝わる。
- ・駅の掃除をしている地元のボランティアのこぼれ話について紹介するなど、細かい部分まで丁寧に取材していて、地域の良い部分を知ることができた。
- ・番組でターゲットとしていた視聴者層はどのあたりに据えていたのか気になった。
- ・イルミネーションの器具は、すでにやめてしまった家族から提供してもらったりリサイクル品で飾りつけをしたというのはよいアイデアと感じた。今後も広く呼びかけて提供してもらってはどうか。
- ・東日本大震災以降、イルミネーションの飾り付けを自粛した家庭も多く見られたが、番組を見て再開したいという人たちのきっかけになればと感じた。
- ・花岡駅の中継映像だけでなく、「きつねの嫁入り」など資料映像を活用して花岡地区の紹介を加えると、視聴者にはもっと花岡地区について理解しやすかったのではないかな。
- ・映像から2人の新人リポーターが頑張っている様子が伝わってきたが、元気が良すぎると周囲が引いてしまう短所もある。リポーターはゲストや来場者とのコミュニケーションをうまくとりながら、放送までゲストの気持ちをもち続ける術を身につけてほしい。

- ・駅構内で展示されていた歴史や過去の写真に触れていたが、説明が少ないと感じた。地元の人が歴史について話していた時に改めて紹介するとよかった。
- ・今回のように、視聴者や地域の人たちがひとつのものにきっかけとなるものをケーブルテレビだからできることを企画したのは評価できる。今後も飾り付けの場所を変えるなどして取り組みを続けてほしい。
- ・イルミネーションの準備風景を見せてもよかったのではないかと感じた。
- ・花岡地区は歴史や伝統の多い地域なので、そうした歴史に関する紹介やがあるとよかった。また、今回なぜ花岡駅で飾り付けをすることになったのか経緯が気になった。等のご意見をいただきました。

■ものづくりの町を作った男～久原房之助の夢～

- ・地元でこうした偉人がいたことを番組を通して初めて知った。
- ・地域を掘り起こす中で、地元の偉人にクローズアップする番組の作りから、ストーリー性のある番組だと感じた。
- ・表面には出てこないが、地道な活動をしている偉人が、地域の中には多くいて、こうした人が歴史の大きなターニングポイントを握っていることがある。Kビジョンは民放局と遜色ない番組構成力を持っているのが強みで、わかりやすい構成で番組がまとめられている。
- ・明治時代と現代では通貨の価値が変化しているので、現在との比較が出るとわかりやすい。
- ・高校生に続いて、日立製作所の技術者を紹介することで、久原の想いがベテランから若者まで広く浸透していることが伝わってきた。
- ・若い人にも見てもらい、地域の隠れた偉人について知るきっかけになるとよい。
- ・久原の描いた18万人都市構想について、もう少し掘り下げて調べてほしい。等のご意見をいただきました。

出席者は、徳永豊委員長、なかはらかぜ、西岡雅宵、友田隆、佐野三和子の各委員、社側から杉田昌士代表取締役社長、矢田民也専務取締役、ほか放送制作部員5名でした。